

令和5年度 事業報告

令和5年度（令和5年7月1日～令和6年6月30日）の「一般社団法人自然環境共生技術協会」の運営及び事業活動については、令和5年度事業計画に基づき、会員各位のご協力により、活発な事業展開を図ることができた。

企画運営委員会、総務委員会、事業委員会、広報委員会及び研究委員会においては、それぞれの所掌事項に関する運営方針に基づき、協会活動の円滑な推進、事業計画の適正な執行、講演会・セミナー・講習会の開催等による事業活動の充実、広報活動の充実、自然環境共生技術に関する研究活動の推進など、積極的な取組みを行った。

令和5年度における会員の異動、総会、理事会、各委員会の開催状況及び事業活動の概要は、以下のとおりである。

1. 会員の異動

令和6年6月30日現在における会員数は次のとおりである。※数字は確認中

会員種別	令和5年 7月1日 現在会 員数	入会者数	退会者数	令和6年 6月30日 現在会員 数	備 考
正会員	32	0	1	31	
賛助 会員	法人	0	0	0	
	個人	4	1	5	
特別会員	3	0	0	3	
計	39	1	1	39	

2. 総会、理事会、各委員会などの開催

1) 総会、理事会、各委員会などの開催状況

総会、理事会及び各委員会を次のとおり開催した。

区 分		開催回数（回）
通常総会		1
通常理事会（うち書面決議1回）		2
審議委員会		1
委員会	企画運営委員会	12
	総務委員会	2
	事業委員会	随時
	広報委員会	4
	研究委員会	7

2) 各委員会の活動

(1) 企画運営委員会

協会活動全般に亘る情報交換を積極的に行い、事業計画執行上の総合的な調整を図るとともに、協会全体としての事業活動の効率的かつ円滑な推進に努めた。

また、一般社団法人としての運営の維持・充実を図るため、会員の拡大策などに関する検討を行った。

(2) 総務委員会

総会の適正な管理・運営を図るため、規程・規則などの充実、会員の拡大・拡充についての検討を行った。

また、予算案、決算案の作成・検討、総会及び理事会の開催準備などを行った。

(3) 広報委員会

協会内外に協会の活動状況などを伝えるためニュースレターを4回発行した。

また、ホームページのレイアウトを更新するとともに協会の機能や活動状況を紹介し、協会活動の広報に努めた。さらに、2023年版会員名簿及び研究等活動実績経歴書の更新・発行を行い、会員、関係機関などに広く配布した。

(4) 事業委員会

特別講演会、野外セミナー、技術士第二次試験受験講習会などの事業を計画・実施し、技術力の向上と人材の育成に努めた。

特別講演会は、令和5年9月12日に環境省自然環境局自然環境計画課長 則久雅司氏を講師としてお招きし、「自然環境行政の最新動向」についてご講演いただいた。

令和6年5月22日には、北海道大学名誉教授 中村太士氏（NECTA研究顧問）を講師として「気候変動とグリーンインフラ：ネイチャーポジティブの主流化」についてご講演いただいた。

野外セミナーについては、令和5年12月4日（月）～5日（火）に自然共生サイト「君津グリーンセンター&大手町タワー」の視察を行った。

技術士第二次試験受験講習会については、5月24日（金）にオンライン形式で実施し、15名（うち2名がテキスト購入のみ）が参加した。

(5) 研究委員会

研究活動の企画、円滑な推進、各研究会の成果のとりまとめ及び成果活用に努めた。

技術セミナーを令和5年10月、11月、令和6年2月の3回、専門家や環境省職員を招聘しオンラインにより開催した。なお、令和6年2月開催回は一般にも公開で開催した。

また、当協会独自の研究活動を積極的に推進するため、会員の中から研究員が参加して行っている自主研究会活動のうち3分野（研究会）について継続している。

3. 事業活動

1) 調査・研究活動

(1) 自主研究活動

① 自然とのふれあい技術研究会

令和5年度も、「施設整備の基準の研究」及び「施設整備の新事例の収集・整理」について関係者に講師をお願いしてテーマにそった話題提供や技術報告をしてもらい、研究会メンバーの知識及び技術の向上に資する研究活動を行った。

研究会は、オンライン会議も併用して環境省オブザーバーにも出席していただき、令和5年度は、合計7回開催した。

② 自然再生技術研究会

令和5年度は、令和5年9月に会員企業の若手からベテランまで19名の参加者をいただき、本研究会を再開した。

本研究会では、自然再生推進法に基づく自然再生協議会を設立された27事業を対象に、環境省のアドバイスや情報提供をいただきながら、自然再生の取り組みの達成状況の把握に着手した。これらの成果は、NECTA設立20周年事業に合わせて紹介する予定である。

なお、令和5年度は、3回の研究会を開催した。

③ 生物多様性技術研究会

令和5年度は、「パブリックスペースとプライベートスペースをつなぐ生物多様性～庭から始まる生物多様性～」をテーマとした研究で、戸建てスケールの生物多様性の価値の評価に関連する事例収集整理を行い、東京都23区の生物多様性地域戦略等に示される指標種や評価手法について調査を実施した。

また、令和6年度は、これまでに生物多様性の評価があまりなされてこなかった戸建て住宅スケールを対象に、生物多様性（自然の豊かさ）の向上を指標種等で評価することだけでなく、人の暮らしの質（ウェルビーイング）が向上したことも評価可能な手法について検討を行うことにしている。

なお、令和5年度は7回の研究会を開催した。

(2) 受託調査活動

環境省から以下の3件の業務を受託し、会員企業の嘱託研究員が中心となって各業務に対応した。

① 令和5年度自然公園等整備工事予算単価に係る調査検討業務

自然公園等整備工事予算単価の見直しと公共標準標識の概算費の把握を行い、今後の予算要求や整備に活用することを目的に、自然公園等整備工事予算単価に係る調査検討を行った。

② 令和5年度自然公園等事業評価システム改善業務

事業評価システム（MEPARA）におけるプログラムの更新作業の改善などを行った。

③ 令和6年度自然環境共生技術研究会開催等業務

自然環境行政に携わる環境省職員および関連事業に従事する民間企業の技術者が一

堂に会し、各々が有する技術や情報の共有を通して、より実効性の高い自然環境共生技術を探求する場として、「第7回自然環境共生技術研究会 (CoNECT2024)」を開催した。
また、開催結果をとりまとめ、次回開催に向けた課題等を整理した。

2) 技術の向上と技術者の育成を図るための活動

(1) 特別講演会

【第1回】

- ・日 時：令和5年9月12日（会場およびオンラインによる併用方式）
- ・テーマ：自然環境行政の最新の動向
- ・講演者：則久雅司氏（環境省自然環境局自然環境計画課長）

【第2回】

- ・日 時：令和6年5月22日（会場およびオンラインによる併用方式）
- ・テーマ：気候変動とグリーンインフラ：ネイチャーポジティブの主流化
- ・講演者：北海道大学名誉教授 中村太士氏（NECTA研究顧問）

(2) 第7回自然環境共生技術研究会 (CoNECT2024)

- ・日時：令和6年6月20日（木）13：30～17：30 令和6年6月21日（金）09：30～16：00
- ・場所：TKP 新橋カンファレンスセンター（主会場）、Web会議によるオンライン形式を併用
- ・主催：環境省自然環境局及び一般社団法人自然環境共生技術協会
- ・参加者：運営・発表者・座長/副座長；44名、環境省；185名、NECTA会員；94名、NORNAC団体所属：4名、総数282名

・次第：

(6月20日)

開会挨拶：白石自然環境局長

特定セッション1：国立公園管理（発表3件）

特定セッション2：公園現場の運営事例（発表3件）

特別講演：「共創時代における国立公園管理に向けて」

下村彰男氏（國學院大學 観光まちづくり学部）（NECTA副会長）

(6月21日)

一般セッション1：政策ツール（発表5件）

一般セッション2：センサー活用（発表3件）

一般セッション3：生物管理（発表3件）

一般セッション4：自然公園整備管理（発表3件）

表彰式：審査員/則久自然環境計画課長、NECTA森本会長

（表彰受賞者）

局長賞：羽井佐幸宏（東北地方環境事務所）

「基礎自治体に対してネイチャーポジティブ関連施策の具体的展開を促す際の技術的手法について」

奨励賞：吉武智哉（北海道地方環境事務所阿寒摩周国立公園管理事務所）

「川湯集団施設地区におけるまちづくり（廃屋撤去と面的整備）」

協会会長賞：杉本嵩臣（いであ（株））

「やんばる国立公園におけるロードキル対策—ドライバー目線からの新たな対策の検討—」

奨励賞：鈴木太郎（アジア航測（株））

「登山道整備における DXの取組み紹介」

環境省自然環境局特別賞：石濱史子（国立研究開発法人国立環境研究所）

「生き物の分布推定ツール オープン SDM」

・閉会挨拶：NECTA森本会長

（3）野外セミナー

○日 時：令和5年12月4日（月）～5日（火）

○視察場所および解説者：自然共生サイト「君津グリーンセンター&大手町タワー」

- ・君津グリーンセンター 内山緑地建設株式会社（NECTA 会員企業）
- ・大手町タワー 東京建物株式会社

（4）技術セミナー

【第1回】

・日 時：令和5年10月20日（金）

・テーマ：自然環境保全基礎調査マスタープランの策定

「自然環境保全基礎調査マスタープラン策定の背景」

環境省自然環境局生物多様性センター 統括企画官 馬淵 亮 氏

「自然環境保全基礎調査マスタープランの概要について」

一般財団法人自然環境研究センター 研究主幹 宮川 浩 氏

総合討論～課題とマスタープラン策定後の取組み等について～

【第2回】

・日 時：令和5年 11 月 22 日（火）

・テーマ：生物多様性地域戦略策定の新しい視座ネイチャーポジティブに向けて

「地域からのネイチャーポジティブ実現に向けて～生物多様性地域戦略への期待～」

環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性戦略推進室室長補佐 松永暁道様

「東京都生物多様性地域戦略（令和5年4月）」について」

東京都環境局自然環境部計画担当課長 青山一彦様

【第3回】

・日 時：令和6年2月28日（水）

・テーマ：自然再生事業

「蒜山地域自然再生全体構想の策定について」

パンフィックコンサルタンツ株式会社 松永香織 氏

「自然再生の『経済活動化』を見据えた蒜山自然再生協議会の取り組み」

蒜山自然再生協議会事務局 千布拓生氏

(5) 講習会

令和6年5月27日(金)に協会会議室において、技術士第2次試験(環境部門：自然環境保全・環境保全計画)を受験される方を対象にZoomによるリモート講習会を開催した。受講者は15名(うち2名はテキスト購入のみ)であった。

なお、開催にあたり、カリキュラム等の検討を行い、「環境部門：自然環境保全・環境保全計画講習会テキスト」を編集・改訂し、講習会等で活用した。

【講習会プログラム】

- ① 「最近の環境行政の動向と自然環境保全施策」
講師：笹岡達男氏 東京環境工科専門学校 校長
- ② 「合格ラインに乗るための論文構成の作り方」
講師：松沢孝晋氏 元アジア航測(株)
- ③ 「受験体験談」
講師：家倉凌氏 株式会社プレック研究所

(6) CPDの推進

会員技術者の継続教育を推進するため、造園学会を中心に構成される造園CPD協議会に参加し、講演会、講習会、セミナーをCPD認定プログラムとして申請し、実施した。

3) 情報提供等に関する活動

(1) ニュースレター

会員への情報提供として第77号～第80号を発行した。

(2) パンフレット・会員名簿

協会パンフレットを改訂した。また、2023年版会員名簿及び研究等活動実績経歴書を編集作成し、会員及び関係機関などへ配布した。

(3) ホームページ

当協会のホームページの情報更新を随時、実施した。

(4) 報告書・講演録等の発行

【技術士試験講習会テキスト】

・環境部門：自然環境保全・環境保全計画講習会テキスト(令和6年5月)

(5) 自然環境共生に関する情報収集及び発信

研究活動などを通じて自然環境共生技術に関連する情報の収集・集積を図った。

さらに、関連団体主催セミナーなど開催情報、関係省庁からの事務連絡などを会員に発信した。

(6) 環境省との新年意見交換会

令和6年1月19日(金) 15:00~17:00

場 所：NECTA会議室 及び Webexによるリモート会議併用方式

内 容：挨拶 NECTA専務理事 市原 信男、趣旨説明等 総務委員長 上杉 哲郎

令和6年度環境省重点説明 環境省自然環境計画課 石川調整官

*令和6年度環境省重点を中心に、テーマ毎に意見交換を実施

*冒頭、環境省担当官よりテーマ毎の重点事項(関係予算案含む)を説明

- ①生物多様性(自然環境計画課/生物多様性戦略推進室/生物多様性センター 等)
- ②国立公園・国民公園(国立公園課/国立公園利用推進室/自然環境整備課 等)
- ③野生生物(野生生物課/鳥獣保護管理室/外来生物対策室 等)

以上